

# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（3年）

## 今年度の分析

(知識)	全体の概要
国語 A	正答率は県平均を下回っている。前年度は県平均を上回っていた言語事項も今年度は下回っている。「話す・聞く」は前年度は県と大きく差がついていたが、今年は下回っているものの、改善がみられる。

(活用)	全体の概要
国語 B	前年度の差よりは改善されているが、正答率は県平均を下回っている。文を書く作業が多い問題では正答率が県平均より低く、無回答率は高くなっている。

分析結果・課題把握	
聞く	正答率は県平均を下回っている。問われている部分を的確に探し、まとめて表すことがうまくできていないようである。
書く	全体的には県平均下回っている。文を適切に書き直す問題はできていたが、自分で言葉を考えて書く問題は正答率が低い。
読む	文中から言葉の意味を読み取る問いができていなかったが、文中の指すもを探し問いはよくできていた。
技能知識	漢字については無回答率が高いものがある。文に合う語句を選ぶ問題は正答率が低く、語句の知識が十分ではないことが分かる。



改善に向けた具体的取り組み事項	
発表や作文を通して考えをまとめたり、伝えたい事柄をつかめるようにする。授業や聞き取りの問題で要点を的確にとらえる力を身につけさせる。	
書くことに苦手意識持たないために、日常的に目的意識を持った文章を書かせるようにする。授業の中では、自分で考えをまとめ文章に表す機会をつくるようにする。	
文の意味を正確に読み取れるように、語彙力の向上を図りながら授業や読書を通して文章を読む経験を重ねるようにする。	
漢字の課題と小テストを継続し、語彙力の向上を図る。文法などの問題は授業の中で復習し問題に取り組みせる。	

(知識)	全体の概要
数学 A	数学に関する意識調査の結果にも表れているが、知識・理解・技能において十分に理解できていて問題を解決できる生徒と、基本的な知識が定着せず技能も身につけることができていない生徒に二分されてしまう傾向にある。

(活用)	全体の概要
数学 B	全体としては県の集計とほぼ同じ結果を示しているが、無答率が高い傾向にある。特に、言葉で答える問題や証明・説明の問題ではその傾向が強くなっている。

分析結果・課題把握	
知識	全体としては県の平均とほぼ同様かやや上回る結果となっている。しかし、十分に定着している生徒とそうではない生徒にはっきりと分かれてしまう傾向が強い。
技能	全体としては県の平均とほぼ同様かやや上回る結果となっている。1年時の結果からは好転しているが、2年時の結果と比較すると同様かやや下回っている。
考えの方	全体としては県の平均とほぼ同様かやや上回る結果となっている。言葉による説明や証明等に関して無答になってしまう生徒の割合が高く、苦手意識を持っていると思われる。



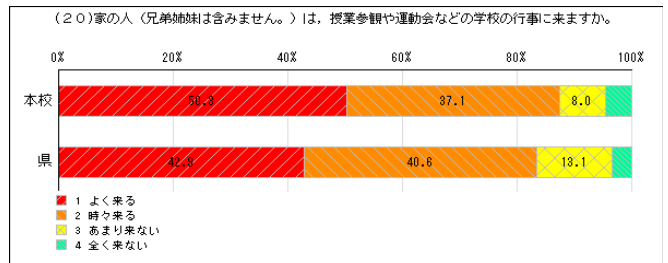
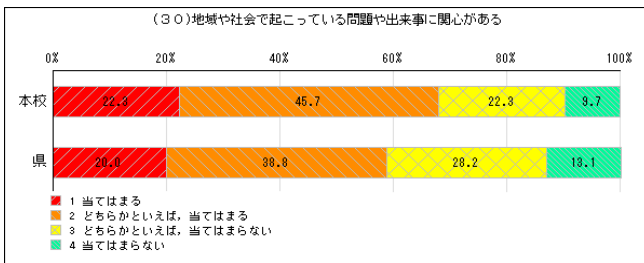
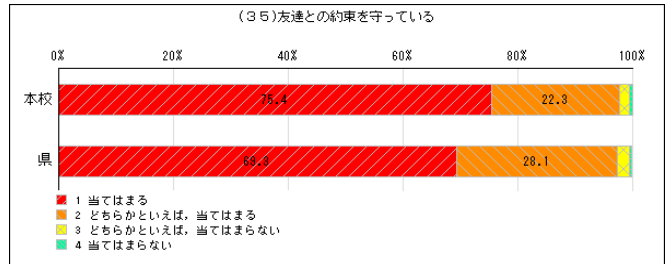
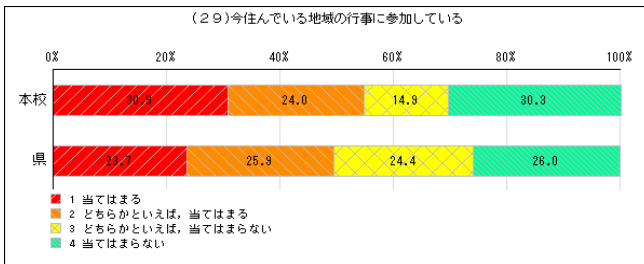
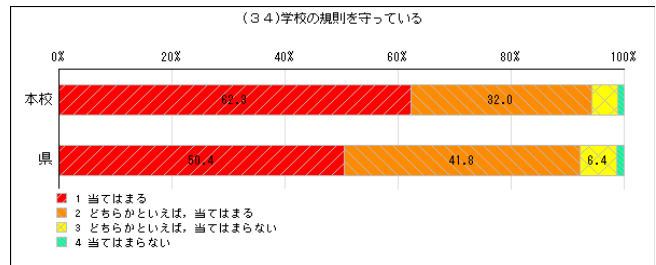
改善に向けた具体的取り組み事項	
基礎的な知識を身につけさせていない生徒に対して、まず学習に関する良い習慣を身につけられるとともに、個別指導の機会をできるだけ設定し、意欲を高めていく。	
基本的な技能を再確認し、繰り返し練習・習熟させるための時間を確保していく。小テストや家庭学習課題等により、既習内容をいつでも使えるようにしていく必要がある。	
説明や証明についてあつかう時間を確保し、解答の方法に慣れさせる必要がある。また、その必要性や有用性を理解させることが大切である。	

# 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（3年）

## 分析と改善に向けた具体的取り組み事項

調査の結果から、生徒達と家庭・地域とのつながりが比較的強いことがわかる。また、多くの生徒が学校の規則や友達との約束を守っている。これらの点は素晴らしいことであり、今後とも継続できるように努力していかねばならない。しかし、学習意欲や学習時間の項目においては、県の結果をやや下回ることが多く、授業の改善や進路指導の充実を中心に、意欲を高める工夫をしていく必要がある。

## 【 数値が特に高かった項目 】



## 分析と改善に向けた具体的取り組み事項

授業の目標の提示の方法についてはいろいろな工夫が考えられるが、今年度の校内研で共通して取り組んでいくことを確認しているので、確実に実践していく必要がある。自己評価や承認されているという意識が低い傾向にあり、学校生活の満足度が十分ではないことと密接につながっていると考えられる。生徒が活躍できる場をより多く準備し、機会をとらえて効果的に褒めることが大切である。

## 【 数値が特に低かった項目 】

